

## 令和7年度(2025年度)事業計画書

令和7年(2025年)1月1日～令和7年12月31日

令和7年度事業計画について、定款に基づき下記の事業を行う。

1. 第32回日米草の根交流サミット2025 サンフランシスコ・ベイエリア大会の開催準備
2. 第33回日米草の根交流サミット2026 フィラデルフィア大会の開催準備
3. 第34回日米草の根交流サミット2027 高知大会開催準備
4. 2028年以降の日米草の根交流サミット開催準備及び開催地発掘
5. 情報の発信

### 1. 第32回日米草の根交流サミット2025 サンフランシスコ・ベイエリア大会の開催準備

開催地: 米国カリフォルニア州サンフランシスコ・ベイエリア地域

共催団体: 北カリフォルニア日本協会、CIE-US

開催時期: 2025年6月3日(火)～10日(火)

内容: 第32回日米草の根交流サミットをカリフォルニア州サンフランシスコ・ベイエリア周辺において開催する。主催は、CIE、CIE-US および北カリフォルニア日本協会。

#### **【サンフランシスコ・ベイエリア大会の概要と準備】**

この地域でのサミット大会の開催は2010年以来2回目となるが、前回の共催団体とは異なり、北カリフォルニア日本協会(JSNC)が共催となる。JSNCの他、日本との姉妹都市提携を結ぶベイエリア地域の各姉妹都市交流団体や、北カリフォルニア日系文化交流センター(JCCCNC)、及び在サンフランシスコ日本総領事館の協力を得ながら開催準備を進めている。

JSNC主催のオープニング式典は、サンフランシスコ市内にある、米国内有数のアジア美術のコレクションを誇るサンフランシスコ・アジア美術館で開催。2年続けてのアメリカでのサミット大会開催となるため、翌年のフィラデルフィア大会紹介をオープニング式典で行う予定。オープニング期間中の参加者の宿泊には、サンフランシスコ市内のホテル・ニッコー・サンフランシスコを利用。式典会場からホテルへの移動には、サンフランシスコで開発された無人運転タクシーWaymoに乗車するなど、IT企業が揃うサンフランシスコ発祥の、まだ日本には

導入されていないテクノロジーを体験できるよう進めている。

到着2日目のローカル・ツアーは、サンフランシスコの歴史に因んだ観光名所を見学するコースとともに日本初の公式使節団とその随行艦咸臨丸のサンフランシスコ到着 165 年を記念する特別レクチャーを盛り込んだツアーを予定している。

以下の2コースのいずれかと咸臨丸来航百年碑での記念レクチャーを提供すべく準備を進める。

A: ジャパニーズ・ティー・ガーデン(日本庭園)

B: アルカトラズ島

大会3日目、6月5日(木)からは、ベイエリアの以下の5地域でそれぞれの地域分科会プログラムを3泊4日の日程で開催する。

- ー サンフランシスコ
- ー ノースベイ(セバストポル・ソノマ周辺)
- ー ペニンストラ(ミルブレー、バーリンゲーム周辺)
- ー サウスベイ(サニーヴェイル、サンタクララ周辺)
- ー イーストベイ(オークランド・バークレー周辺)

大会6日目、6月8日(日)のクロージング式典とそれに続くフェアウェル・パーティーはサンフランシスコ空港周辺のペニンストラ地域の会場を予定。参加者はホストファミリーと共に会場に集まり、家族と共に式典に参加する。

## **2. 第33回日米草の根交流サミット 2026 フィラデルフィア大会の開催準備**

開催地: 米国ペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺都市

共催団体: 広域フィラデルフィア日米協会、CIE-US

開催時期: 2026年10月20日(火)~27日(火)

内容: 第33回日米草の根交流サミットをペンシルベニア州フィラデルフィア及び周辺都市において開催する。主催は、CIE、CIE-US および広域フィラデルフィア日米協会。

### **【フィラデルフィア大会の概要と準備】**

広域フィラデルフィア日米協会(JASGP)の全面的な協力を得ながら開催準備を進める。在ニューヨーク総領事館の支援も頂く予定。アメリカ建国250年となる記念の年に、憲法が宣言された地での開催であることから、それにふさわしい記念となるプログラムを起案中。

開会式典は、独立記念館前のインデペンデンスモールの施設を予定している。

フィラデルフィアのローゼンバック博物館には、「漂異紀畧」の写本のひとつであるキューリン本が所蔵されており、大会期間中の展示または閲覧を提案している。

また、2025年サンフランシスコ大会の開催地から更に東へ旅をつづけた遣米使節団の市民交流を体験すべく、ワシントンD.C.からフィラデルフィアを経てニューヨークへと巡り、それぞれの地でプログラムの開催を準備。ニューヨーク日本協会、ワシントンD.C.日米協会、及び日本大使館の協力を仰ぎながら、引き続きプログラム内容の充実に努める。

### **3. 第34回日米草の根交流サミット2027高知大会の開催準備**

開催地： 高知県内市町

共催団体： 高知県庁、土佐清水市、CIE-US

開催時期： 2027年 期日未定

内容： 第34回日米草の根交流サミットを高知県内の市町において開催する。主催は、CIE、CIE-US、高知県庁および土佐清水市

#### **【高知大会の概要と準備】**

高知県庁と土佐清水市の協力を得ながら開催準備を進める。万次郎生誕200年にあたる2027年に万次郎の生誕の地で、万次郎と彼を救ったホイットフィールド船長から始まった友情と、彼の功績、そして日米交流の礎を祝う。

今後、県庁文化国際課と、開催期日の決定や地域分科会受け入れ地域の開拓を進めていくと同時に、プログラム内容の充実に努める。また、全国の万次郎関連団体との連携を図りながら、万次郎生誕200年に合わせた活動とともに、サミット大会の広報も進めていく。

### **4. 2028年以降の日米草の根交流サミット大会の開催地発掘**

2028年以降、アメリカでの大会については全米日米協会(NAJAS)および各地の日米協会と、日本での開催については、都道府県の国際課や日米協会、また、万次郎および国際交流に興味のある団体と交渉を進めながら、引き続きサミット大会開催地の発掘を随時行っていく。

## 5. 情報の発信

### (1) ニュースレター「草の根通信」

令和7年度中に4回発行する。財団ウェブサイトに掲載するとともに、必要部数を冊子として製本し、賛助会員、寄付者、サミット大会開催地の関係者、ボランティア等に配布。今後のサミット大会開催に関する広報機能も有したものとす。また、昨今の配送費や他物価上昇に際し、配送方法の検討も進めていく。

### (2) 活動報告書(アニュアルアクティビティレポート)の刊行

内 容： サンフランシスコ大会を主とした令和7(2025)年度中の活動報告。  
日英の両言語表記。  
配布先： 財団及び大会・交流プログラム関係者  
広報資料としても活用。

### (3) 電子媒体

#### ① ホームページおよび SNS の活用

最新情報や財団の活動全体を常時参照できるツールとしてホームページを利用してもらえるよう整備する。また最新のサミット大会情報にアクセスしやすいものとし、参加者募集により直接的に役立つものとする。また、今後電子書類やオンライン申し込みなど、メール配信による情報発信の促進につなげる。

以上